

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：14503

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531244

研究課題名(和文) 重度重複障害のある児童生徒への自立活動の指導に関する研究

研究課題名(英文) Study on education to promote independence for children with Multiple and profound disabilities

研究代表者

石倉 健二 (Ishikura, Kenji)

兵庫教育大学・学校教育研究科(研究院)・准教授

研究者番号：40304703

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)： 重度重複障害のある児童生徒への自立活動の指導のために、「自立活動指導内容例集」と「指導内容に対応するアセスメント表」の作成を行った。「指導内容例集」については全72頁152個の指導法を整理し、「指導内容に対応するアセスメント表」には132項目が含まれている。これを活用することにより、重度重複障害の児童生徒の指導経験が少ない教員でも、一定の指導ができるようになることの一助になることが期待される。

研究成果の概要(英文)： This study was to investigate "The examples of JIRITSUKATSUDO for children with severe and multiple disability" and "The checklists for JIRITSUKATSUDO". The previous contained 152 items and the latter contained 132 items. These were effective for beginner teacher in special support school.

研究分野：特別支援教育

キーワード： 重度重複障害 自立活動 指導法 実態把握 アセスメント 特別支援学校

## 1. 研究開始当初の背景

特別支援学校に在籍する肢体不自由者のうち 87.3%、病弱者のうち 87.5%が重複障害者である（文科省 2010）。すなわち、肢体不自由者と病弱者を対象とした特別支援学校においては、在籍児童生徒のほとんどが重複障害と言える。

これまでの重複障害者の自立活動の指導においては、基本的な指導内容があいまいであり、系統的な指導が展開されてきたとは言い難く、重複障害者の自立活動の指導の改善の必要性が強調されている（川間 2010）。

加えて、特別支援学校の総合化に伴い、いわゆる知肢併置という形で、これまで知的障害を主な対象としていた特別支援学校においても、多くの肢体不自由の児童生徒が在籍するようになった。そうした学校では、特別支援学校の勤務歴は長くても、自立活動の指導について不慣れな教員も少なくない。

そのため、自立活動の指導において、前年度担当者から引き継いだ指導法をそのまま継続しているだけの状況も多く存在する。特に重度重複障害のある児童生徒については、「何についての実態把握をする必要があるのか分からない」「何を指導すればいいのか分からない」といった教員の戸惑いや不安の声がよく聞かれる。

重度重複障害児者のアセスメントや支援法について、特別支援教育領域に限ることなく、医療や福祉、臨床心理学などを含めた広い領域から収集することが自立活動の内容を豊かにすると考えられる。また、それを体系的に整理することで自立活動の指導法に関する資料を提供できると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究では、重度重複障害の児童生徒の自立活動の指導について、経験の少ない教員でも一定程度の指導ができるようになることを目的に、以下の 2 点について研究を行う。

- ①自立活動の指導法について系統的な整理を行い「自立活動指導内容例集」を作成する。
- ②「自立活動指導内容例集」に関連させて、実態把握の一助とするための「指導内容に対応するアセスメント表」を作成する。

## 3. 研究の方法

研究 1:「自立活動指導内容例集」の作成に向け、自立活動の指導法を収集する。

研究 2: 研究 1 で収集した指導法を、自立活動

の 6 区分 26 項目に従って分類し、「自立活動指導内容例集」を作成する。

研究 3:「自立活動指導内容例集」に関連づけた実態把握が可能となるような「指導内容に対応するアセスメント表」を作成する。

## 4. 研究成果

### (1) 研究 1-2:「指導内容例集」の作成

全 72 頁 152 項目の指導内容例集を作成した。その一部を以下に示す。

#### ①健康の保持（生活のリズムや生活習慣の形成に関すること）

- 対応する実態：覚醒状態が低い
- 課題：揺れる活動
- 学習内容/手立て/配慮事項
  - ・「揺れ」は睡眠—覚醒のリズムをととのえる効果があるといわれています。
  - ・毛布やバスタオルのブランコで、ゆらゆらと身体を起こした姿勢をとるようにしたり、座っているときも音楽を聴くなど外からの刺激を入れるようにします。



#### ②健康の保持（病気の状態の理解と生活管理に関すること）

- 対応する実態：痰のある場所が分かる
- 課題：体位排痰法
- 学習内容/手立て/配慮事項
  - ・痰が出やすい姿勢にしたり、痰のたまっている部位を上にする事で痰を出しやすくすることも重要です。
  - ・背臥位は背部に痰がたまりやすいため、日常生活では側臥位か腹臥位をとるのが望ましいです。



### ③心理的な安定（情緒の安定に関すること）

- 対応する実態：快の表出がみられる
- 課題：感じて動くやりとり
- 学習内容/手立て/配慮事項
  - ・身体を一緒に動かしながら、様々な刺激に相互関連性を持たせながら指導を行います。
  - ・セラピーボールの上での揺れやはずみ刺激のあとには、心地よい表情や笑顔になり視線をあわせるようになりますことがあります。
  - ・大人に視線や注意を向けるように促したり、身体の動きを促すように働きかけます。
  - ・座って一緒にからだを動かす中で、表情を変え、身体を動かし、背を伸ばそうとすることがあります。
  - ・心地よい刺激は、それをもたらす他者や外界への注意を促します。あまり強い刺激になりすぎないように注意します。



### ④心理的な安定（状況の理解と変化への対応）

- 対応する実態：いつ、どこで、何をすればよいか分からない
- 課題：見通しをもつ
- 学習内容/手立て/配慮事項
  - ・「見通し」を持ってもらうことで、気持ちの安定を目指します。
  - ・「この場面ではこの活動」「この場所ではこの活動」「この活動が終わったら次はこの活動」というように、場面や時間での活動をわかりやすく「構造化」すると理解がしやすく、落ちつきやすくなります。



### ⑤人間関係の形成（他者との関わりの基盤に関すること）

- 対応する実態：身近な他者と他の人を区別できる
- 課題：歌遊び（一本橋こちょこちょ、など）
- 学習内容/手立て/配慮事項
  - ・子どもを膝の上に座らせるなどして、向かい合わせになります。
  - ・「いっぽんば〜し、こ〜ちょこちょ」などと歌いながら、歌に合わせて指先から腕の方をくすぐるようにしていきます。
  - ・触り方や歌い方に変化をつけて、子どもの興味を引きつけるように心がけます。



### ⑥人間関係の形成（他者の意図や感情の理解に関すること）

- 対応する実態：他者の働きかけに応じることができる
- 課題：動作法による腕上げ課題
- 学習内容/手立て/配慮事項
  - ・子ども自身のからだへの気づき、自分のからだを扱っている他者への気づき、自分のからだを操作している大人にあわせて子どもが自分自身のからだの動きを調整することなどを目指します。
  - ・横になった子どもの隣に座り、子どもの上肢を軽く保持し、合図をしながら腕の上げ下ろしをします。



⑦環境の把握（保有する感覚の活用に関すること）

- 対応する実態：小さな物に注意を向けることができる
- 課題：物を目で追う
- 学習内容/手立て/配慮事項
  - ・子どもが興味を持つ物を使って、目で物を追うことを促します。
  - ・クーゲルバーン（写真）、ジャンボ玉落としの玉を大人が落として、その玉の行方を子どもが目で見追うように促します。
  - ・玉が音を立てながら転がっていくので、子どもの注意を引きやすいおもちゃです。



⑧環境の把握（感覚や認知の特性への対応に関すること）

- 対応する実態：顔に触られることを強く嫌がる
- 課題：感覚過敏への対応（顔面）
- 学習内容/手立て/配慮事項
  - ・過敏が口腔内外に認められる場合には、これを取り除くこと（脱感作）が大切です。
  - ・脱感作の順序は、過敏が認められる部位の中で最も正中線から離れた末梢から開始し、徐々に正中に近いところに移動していきます。
  - ・顔にも過敏があり、腕にも過敏がある場合は、まず手の甲や腕、肩、頸、それから顔という順序で進めるようにします。
  - ・できるだけ弱い刺激を入れて、徐々に刺激に慣れさせていきます。手の平全体で幅広く押し当てるような触り方が、刺激の少ない触り方となります。



⑨身体の動き（姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること）

- 対応する実態：全身の筋緊張が強い
- 課題：クッションにゆっくりともたれる
- 学習内容/手立て/配慮事項
  - ・側臥位の姿勢で体の前後にファシリテーションボールやクッションをはさみます。
  - ・このクッションにゆっくり体をあずけることができるように、クッションは体に密着するように当てます。
  - ・これだけで、お腹や首・肩の力が入りすぎている筋緊張を、自分でゆるめることがしやすくなります。



⑩身体の動き（身体の移動能力に関すること）

- 対応する実態：体の一部を意図的に動かすことができる
- 課題：スイッチの工夫
- 学習内容/手立て/配慮事項
  - ・子ども達の活動を支える上で、各種スイッチ類の入力装置は「自分でできるようにする」ためには有効です。
  - ・スイッチを活用する際に気をつけなければならないのは、子どもにスイッチをあわせるということです。
  - ・子どもが活動に参加できるようにスイッチを用意するのであり、スイッチを練習するのが目的ではありません。
  - ・ボタンになっている面を押すことで作動するもっともポピュラーなタイプです。
  - ・机に置いて使用するほか、スイッチマウントシステムを利用することで、身体の様々な部位で操作することができたり、車イスに取り付けたりすることができます。



(2) 研究3:「指導内容に対応するアセスメント表」の作成

発達段階として、概ね1歳6か月程度までの段階に相当する項目で、「指導内容例集」に対応する形で以下のアセスメント表を作成した。

①感覚と運動に関連するアセスメント表(52項目)、②運動に関連するアセスメント表(粗大運動16項目、操作面9項目)、③コミュニケーションに関連するアセスメント表(社会性16項目、言語表出9項目)、④身の回り与健康に関連するアセスメント表(食事8項目、摂食時の口腔機能6項目、排泄5項目、歯みがき6項目、呼吸状態5項目)

以下にその一部を示す。

①感覚と運動に関連するアセスメント表

	項目内容	対応頁
自己受容	揺れに対して快の反応を示す。	I-1 II-1 III-1 IV-1~4 V-1~2
	ぐるぐる回しに対して快の反応を示す。	
	手や足にやわらかい物を押し当てることに快の反応を示す。	
	手首、足首、肘、膝等へ軽く触れる刺激に対して快の反応を示す。	
働きかけを快として受容	好みの人物を見つけるとそのことを行動で示す。	II-1 III-1~2 IV-1~4 V-2~6, VI-1~2
	保護者または教師と他の人への反応が違う。	
	特定の曲を聴くと、喜びを行動で示す。	
	周囲の人が話しかけると、喜びを行動で示す。	

②運動に関連するアセスメント表(粗大運動)

	項目内容	対応頁
頸の動き	顔の向きを自分で変えることができる	V-2~8 13~16
	首がすわっている。	
上下肢の動き	上肢や下肢を意図的に突っ張ることができる。	V-3~10
	うつぶせにした時、両腕で胸や頭を持ち上げることができる。	

③コミュニケーションに関連するアセスメント表(社会性)

	項目内容	対応頁
外界への反応	大きな音に何らかの反応がある。	II-1 III-1,2 IV-1,2,4
	人の顔をじっと見つめる。	
人への反応	人の声がかかる方向へ向く。	II-1 III-1,2 IV-1,2,4 VI-1~2
	人を見ると笑いかける。	

④身の回り与健康に関連するアセスメント表(食事)

	項目内容	対応頁
食への関心	空腹時には口を動かすことがある。	I-2~5
	お腹がいっぱいになると、顔をそむける。	
	食べ物を見るとうれしそうにする。	
食への意欲	食べ物のある様子を感じて、それを欲しがることが見られることがある。	I-4~10
	スプーンを口元に持って行くと、唇を突き出して食べようとすることがある。	

(3) 本研究成果のハンドブック化について

本研究においてまとめられた「自立活動指導例集」と「指導内容に対応するアセスメント表」はこれをセットとして、ハンドブックとして製本する予定である。

これにより、当初の研究目的として掲げていた「重度重複障害児者のアセスメントや支援法」についての体系的整理と、重度重複障害の児童生徒の自立活動の指導について、経験の少ない教員でも一定程度の指導ができるようになることに、寄与するものと思われる。

今後、関係諸機関への配布と研修会等を通じた提供を行っていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

- ① 蘆田圭,石倉健二 重症心身障害児の表出カテゴリー表の作成. 兵庫教育大学学校教育研究センター紀要, 査読無, 25巻, 2012, 75-82.
- ② 黒山童太,高島恭子,豊島律,柳詰慎一,下峯麻子 自傷行為からみた自閉症児への理解と支援に関する一考察. 長崎国際大学社会福祉学会研究紀要, 査読有, 9号, 2012, 1~8.
- ③ 秀島圭和,石倉健二 重度・重複肢体不自由児のコミュニケーション学習のアセスメント表の作成. 兵庫教育大学発達心理臨床研究センター紀要, 査読無, 26巻, 2013, 41-46.
- ④ 和田健作,石倉健二 発達性協調運動障害の疑いのある幼児に対する運動指導の検討. 兵庫教育大学学校教育研究センター紀要, 査読無, 2013, 20巻, 79-88.
- ⑤ 久保雅敬,石倉健二 頭部外傷性後遺症者への立位課題の過程. 特殊教育学研究, 査読有, 2014, 52巻2号, 107-114.

- ⑥秀島圭和,石倉健二 重障児の心拍変動を用いたコミュニケーションの基礎的能力に関するアセスメント法の検討. 兵庫教育大学学校教育研究センター紀要,査読無, 2015,27 巻, 19-23.

[学会発表] (計 5 件)

- ①山岡利恵,梶正義 知的障害のある青年の余暇活動支援—料理カードと感想シートを用いた料理活動の支援—,日本特殊教育学会, 2012年9月28-30日, つくば市.
- ②石倉健二,小栗逸子,三井由香 1週間キャンプでのADL評価の試み〜FIMを用いて〜. 日本リハビリテーション心理学会, 2012年11月30日, 福岡市.
- ③梶正義,竹中正彦,藤田継道 発達障害のある子どもの新生児期における発達上の特徴とその後の変化ならびに母親のストレスとの関係.日本発達心理学会, 2013年3月15-18日, 東京都.
- ④石倉健二 療育キャンプを通じた行動障害の変化についての定量的評価に関する研究. 日本リハビリテーション心理学会, 2014年12月5日, 長野市.
- ⑤黒山竜太 障がい児をもつ保護者のネットワークキングに関する研究—セルフヘルプグループに対するニーズ調査から—. 日本リハビリテーション心理学会, 2014年12月5日, 長野市.

[図書] (計 4 件)

- ①橋本正巳 (単著) 気になる子どもの支援ハンドブック〜マルチアレンジングサポートのすすめ〜. 全国心身障害児福祉財団, 2012, 355.
- ②橋本正巳 (共著) 気になる子どもの支援概論; 気になる子どもの支援ガイド. 全国心身障害児福祉財団, 2014, 103-118.
- ③橋本正巳 (共著) 学習支援のポイント; 気になる子どもの支援ハンドブックⅡ. 全国心身障害児福祉財団, 2014, 6~22.
- ④梶正義 (共著) 子どもの望ましい行動を育む支援; 気になる子どもの支援ガイド, 全国心身障害児福祉財団, 2014, 119-140.

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

石倉 健二 (ISHIKURA KENJI)  
兵庫教育大学・大学院学校教育研究科・准教授  
研究者番号: 40304703

(2) 研究分担者

橋本 正巳 (HASHIMOTO MASAMI)  
くらしき作陽大学・子ども教育学部・教授  
研究者番号: 30566568

梶 正義 (KAJI MASAYOSHI)

くらしき作陽大学・子ども教育学部・准教授 (平成 26 年 3 月まで)  
関西国際大学・人間科学部・准教授 (平成 26 年 4 月より)  
研究者番号: 00623563

黒山 竜太 (KUROYAMA RYUTA)

長崎国際大学・人間社会学部・准教授 (平成 25 年 3 月まで)  
東海大学・阿蘇教養教育センター・准教授 (平成 25 年 4 月より)  
研究者番号: 30533468